

■ ■生涯学習 か・く・ろ・ん ー主体・情報・迷路を遊ぶー

1991年4月25日 第1版

第1部 「個の深み」への注目、そして、支援

はじめに ー「個の深み」とは何かー

1 社会教育における組織と個人

(1) 「組織的教育活動」の従来への解釈

(2) 集合学習偏重から個人学習の重視へ

(3) 組織・社会にとっての「個の深み」と社会教育

ー個人学習の支援から、さらに「個の深み」の支援へー

2 講義型学習と社会教育、高等教育

(1) 社会教育における講義型学習への反発と回帰

(2) 社会教育のアナロジーとしての高等教育

(3) 講義からの「逃避」に隠された弱点

ー多数者の主体性の支援からさらに「個の深み」の支援へー

3 「個の深み」を支援する講義技術

(1) 「個の深み」を支援する講義技術

(2) 反応・発展の個別化を促進する方法

(3) 書くこと・・・「出席ペーパー」の意義と実際

(4) 「個の深み」を考える

ーまとめと問題の所在ー

視点1 イチ（市）とクラ（蔵）によるモノの拠点

ー西武ロフトがとらえた若者たちー

視点2 個としての主張を援助する新しい民間教育事業

ー東急クリエイティブライフセミナー渋谷BEー

視点3 「個人」がいきいきするしかけ

ー横浜女性フォーラムの情報・施設・講座ー

視点4 「個の深み」を尊重し助長する団体活動の形態

第2部 情報の主体的な受信・発信をめざして

1 現代都市青年と情報

ーヤングアダルト情報サービスの提唱ー

はじめに

(1) 青年と情報環境

(1) ー1 現代都市青年の情報化不適應

(1) ー2 青年をとりまく情報の特質

(1) ー3 情報の限界

- (1) - 4 情報能力と情報必要（ニーズ）をめざして
  - (2) 公的情報提供ーヤングアダルト情報サービスの提唱ー
    - (2) - 1 情報の提供にともなう操作性
    - (2) - 2 青年の要求にこたえるヤングアダルト情報サービス
  - (3) ヤングアダルトのための情報
    - (3) - 1 提供する情報の基本的性格
    - (3) - 2 青年が要求する情報と、青年に必要な情報
    - (3) - 3 人間の情報
    - (3) - 4 生活の情報
    - (3) - 5 連帯の情報
    - (3) - 6 地域情報と行政情報
  - (4) 青年とともに育つ情報サービス
    - (4) - 1 「ともに育つ」情報提供
    - (4) - 2 ネットワークとインフォメーションリーダー
    - (4) - 3 パソコン通信の活用
    - (4) - 4 情報ユースワーカーの役割
    - (4) - 5 情報サービスと「教育的役割」
    - (4) - 6 情報と知的生産
- 2 パソコン・パソコン通信と青年
- ー成熟したネットワークとは何かー
- (1) パソコンの急速な普及と未成熟性
    - (1) - 1 青少年から始まったパソコン
    - (1) - 2 パソコンの機能と新しい文化
    - (1) - 3 パソコン文化の未成熟性とパソコン通信による成熟化
  - (2) ネットワークを体現するパソコン通信
    - (2) - 1 新しいコミュニケーション環境
    - (2) - 2 スタンド・アローンがネットワークする
  - (3) パソコン通信における新しい「知」と「集団」
    - (3) - 1 ROMの存在
    - (3) - 2 新しい「知」の誕生
    - (3) - 3 新しい「集団」の形成
- 3 パソコン通信は生涯学習に何を与えるか
- (1) 「在来型の生涯学習」を支援する
  - (2) 「新型の生涯学習」とは何か
  - (3) ミスマッチ、アバウト、ジグザグ
  - (4) コミュニケーション型学習

(5) ネットワークによる知的生産

- 視点1 生涯学習関係者のパソコン・ネットワーク  
－A V－P U Bのサロンで「私的」交流－
- 視点2 学習情報提供事業の企画と展開  
－人間が学習情報を求めている－
- 視点3 学習情報提供の実際

第3部 主体的な学習を個人がとりもどすために

1 子どもたちの団体活動

－そこに秘められている大いなる教育力－

- (1) 教育とは子どもがワクワクする営み
- (2) 少年団体活動とは子どもの「準抛卒」に迫っていく活動
- (3) 少年団体活動には教育力があふれている
  - (3)－1 体験のもつ教育力
  - (3)－2 参画のもつ教育力
  - (3)－3 地域活動のもつ教育力
  - (3)－4 仲間集団や異年齢集団のもつ教育力
- (4) 子どもにだって「個の深み」がある

2 地方自治体における学習プログラム作成の視点

- (1) 知と健康のネットワークを支援するシステム
  - (1)－1 過去の団体中心主義と現在の施設中心主義
  - (1)－2 ピラミッド型からネットワーク型へ
  - (1)－3 啓蒙主義の発展的解消としてのネットワーク型問題提起
- (2) 年間事業計画の作成
  - (2)－1 地域の実態、行政の実態をとらえる
  - (2)－2 学習要求をとらえる
  - (2)－3 「公的課題」の優先
  - (2)－4 学習課題を整理する
- (3) 個別事業計画
  - (3)－1 「学習ニーズ」の優先
  - (3)－2 参加対象をどう設定するか
  - (3)－3 各コマの学習目標・学習主題・学習内容を設定する
- (4) 学習プログラム作成上の今後の課題

視点1 あたたかいディスコダンス

視点2 レクリエーション的な要求への対応

視点3 高齢者教育における学習課題のとらえ方

視点4 グループリーダーの新しい形

視点5 リーダー研修に望まれる内容

視点6 学習圏構想によって生み出される自治体のアイデンティティ

ー東京都足立区の生涯学習推進構想ー

## ■■こ・こ・ろ 生涯学習

ーいばりたい人、いりませんー

### 第1部 生涯学習するところとは何か

#### 1 フリーチャイルドの心をとりもどす

- (1) ガンバリズムで自分をごまかすことをやめる
- (2) 人間らしい心を取り戻す
- (3) フリーチャイルドの心で学ぶ
- (4) 学習とは、自分が自分を変えること
- (5) 学習とは、水平なギブ・アンド・テイクのネットワーク
- (6) 何で生きてるの？
- (7) 生きる力としての主体性をはぐくむ学習を

#### 2 生涯学習理念はなぜ新しいのか

- (1) あらゆるひと・機関・施設が生涯学習の振興のために手をつなぐ町
- (2) 傷つけあう関係ではなく、ともに支えあう関係にあふれる町
- (3) 人間が疎外されることなく、ともに幸福を追求しあう町
- (4) 一人ひとりが楽しくいきいきと仕事や学習に励める町
- (5) 地球や人類の将来を憂えるグローバルでやさしいところをもつ町
- (6) 一人ひとりの個性がのびのびと発揮される町

#### 3 学校週5日制で問われる大人の主体性

- (1) 青少年団体自身が拒否すべき安易な受け皿論
- (2) 新しい土曜日の個別性
- (3) 新しい土曜日が求める主体性
- (4) ヒエラルキーへの従属からネットワークの主体へ
- (5) 「個の深み」とMAZE（社会教育の新しい展開）
- (6) マニュアルを越えて

### 第2部 こころを開く態度変容の学習

#### 1 こころを開いて交流できる仲間づくりの方法

- (1) あったかいディスコ
- (2) いっしょにつくりあげるから「あったかい」
- (3) 安心してしゃべれる会議

- (4) 仲間とゴハン・オフロ・フトンをする意味
- (5) 自然に仲間づくりができるようにするための演出
- (6) てれないで、ロールプレイング
- (7) ロールプレイングによって実感をともなって見る
- (8) ロールプレイングによって「信頼感」を呼びおこす

## 2 授業の主體的な楽しみ方

- (1) まじめな人の問題点
- (2) 君の主体を問う
- (3) 知のヒエラルキー v s ネットワーク

## 3 情報へのネットワーク型アクセス

- (1) 過去の知の重力圏からの脱出
- (2) 本の私有と共有の方法
- (3) 電子化された情報・映像化された情報
- (4) 情報とストロークの発信

## 第3部 主体的学習へのいざない方

### 1 学習相談がめざすもの

- (1) 学習相談は、従来の日常的相談でも、現在の学習情報提供でもない
- (2) 学習相談とは何か
- (3) コンピュータの効果的活用と人間の介在の必要性
- (4) 生涯学習の主体としての自立への援助
- (5) ネットワークの中でともに育つ

### 2 保護や管理ではなく自由への恐怖を与える

- (1) 自分は求めるけれど、人にはあげられない
- (2) 現実原則の中でのストロークの自己管理を
- (3) コミュニケーションの成熟化と無力化
- (4) 管理や保護よりも自由を

## ボクと出席ペーパー（本文中に散らす）

- ( 1) 学校教育への恨み
- ( 2) 勤勉主義のごまかし
- ( 3) 授業は勝負だービートたけしに勝つ授業を公言することの意味
- ( 4) 学習に対する強迫観念
- ( 5) 学生の敗北主義に対する教師のエンカウンター
- ( 6) 身勝手な恋愛観
- ( 7) 対等な人間関係の中での性的興奮や快感を受容できない

- ( 8) 気をつかうな、気のきく人になれ
- ( 9) 教師や他人の自信を不快に思う敗北主義
- (10) ヒエラルキーへの抵抗
- (11) 信用ではなく信頼を
- (12) 強力な幸福願望と自分の幸せについての懷疑
- (13) アイデンティティの喪失
- (14) 今の自分や他人を判断したくない気持ち
- (15) 他人の「聞く耳」がこわい
- (16) 人間不信の深み
- (17) 集団への帰属に対する拒否感
- (18) 山アラシのジレンマ
- (19) 自己表現の不器用さと表現の解放
- (20) 共感的理解の能力の必要
- (21) 自分のために生きるーギブ・アンド・テイク
- (22) 仲間の撤退を許すネットワークマインドを身につけよ

## ■■癒しの生涯学習

### Lifelong Learning for Healing

ーネットワークの

あじわい方とはぐくみ方ー

#### 第1章 癒されない3つの病理

- 1 家族関係の病理・・・・・・・・14
- 2 教育システムの歪み・・・・・・・・22
- ーぼくたちはいったい何のために学んでいたのかー
- 3 自分自身の内なるピアコンセプト・・・・・・・・30

#### 第2章 癒しと貢献の自己決定入門

- 1 事実よりも真実・・・・・・・・34
- 2 合格はラッキーではなく不幸なのか・・・・・・・・38
- 3 奴隷の覚悟を決める・・・・・・・・40
- ー積極的積極性と消極的積極性ー
- 4 空しさに耐える・・・・・・・・44
- 5 自己受容による自己変容・・・・・・・・50
- 6 自罰と他罰のデリケート・・・・・・・・54
- ー淋しがり屋のタカビーー

## 7 指導者としての責任のもち方・・・・・・58

－共感的理解は義務なのか－

## 第3章 気づきと癒しのネットワーク心得

－自他否定と仮面演技の上下同質競争から、  
基本的信頼と共感的理解の水平異質共生へ－

- 1 あんた世間なめてんじゃない？・・・・・・62
- 2 見返りを押しつけるな、見返りが期待できるような行為をせよ・・・・・・64
- 3 「ましなろくでなし」であればよい・・・・・・66
- 4 枝葉としての幸福追求・・・・・・70

－積極的積極と積極的消極の連動－

## 第4章 知的水平空間における指導批判の方法

- 1 権力にしっぽを振るな・・・・・・74

－教師の葛藤より学習に重大なもの－

参考資料 「先生という言葉をやめてみよう」・・・・・・77

- 2 教える側の義務の限定と、学ぶ側の批判範囲の限定・・・・・・78
- 3 「ヒハンのペーパー」の存在価値・・・・・・82

## 第5章 癒しのサンマのつくり方

- 1 チ・イ・キなんか若者の居場所になるの？・・・・・・92

－未来型生涯学習支援サービスをめざして－

◇学校・職場・家庭・社会からの地域教育力への空念仏をやめてみたら？…◇若者の巣立ちの場としての地域を地域自身が受容できるか…◇新型キーパーソンの登場と未来型生涯学習支援サービス

- 2 出入り自由の「こころのネットワーク」の運営法・・・・・・98

◇ヒエラルキーを蹴飛ばすプータローの「自由な遊び心」…◇自分の人生をていねいに大切に生きたいという「ミーイズム」の肯定…◇アイデアはバラバラだけれど、そのひとつひとつが宝物…◇プータローの自由のつらさ…◇撤退自由のネットワークにおける「潔い撤退」…◇出入り自由の淋しさを受容する…◇よその地域の青年たちの意味…◇キャンプは夜だ…◇若者が自分のお金を払う時…◇空白のプログラム…◇善と悪、薬と毒の混在するアンビバレンツな人間存在への関心…◇狛プーはスムーズな自己開示のネットワークである…◇男と女の出会いのための公的サービス…◇いい男、いい女さえ支援すればよい…◇「おうち」としての狛プー（狛プーの公的・現代的意義）…◇癒しと成長、受容と変容の好循環

## 第6章 生涯学習時代における大学の役割

1 高等教育の根底的転換・・・・・・・・・・118

◇現代人の生涯学習欲求の高まりの反映として…◇市民の多様化・高度化する学習ニーズへの対応を…◇市民の潜在的学習欲求の顕在化のための学習内容・方法の開発を…◇高等教育の制度等の柔軟化と個性化を…◇市民・学生のための大学からの情報発信と、大学へのアクセシビリティの確保を…◇市民・学生の学習成果への評価と、市民・学生からの事業・授業への評価を…◇学内に全体的・総合的な生涯学習推進組織を…◇他大学・他機関との生涯学習ネットワークの形成と地域生涯学習推進計画の実現を…◇生涯学習理念にもとづく大学の自己革新を

2 高等教育内容7つの転換・・・・・・・・・・128

◇転換1ー自己決定・自立支援型にする…◇転換2ー双方向・水平交流型にする…◇転換3ーいつ・どこ・だれ・なに型にする…◇転換4ーおもしろ・感動型にする…◇転換5ー課題提起・解決型にする…◇転換6ー生きがい創出型にする…◇転換7ー信頼・共感・癒し型にする

参考資料 「生涯学習の再定義」・・・・・・・・・・131

第7章 ボランティアのシドウ

1 大人社会の御都合主義批判・・・・・・・・・・134

ー楽しい生涯学習施設経営と楽しいボランティアのためにー

2 おわりにーボランティアと指導・・・・・・・・・・140

ーアンビバレンツな人間存在と、善と悪の真実を追求する方法ー